

# 第1 犯罪の概況

## 1 刑法犯

### (1) 発生(認知)状況

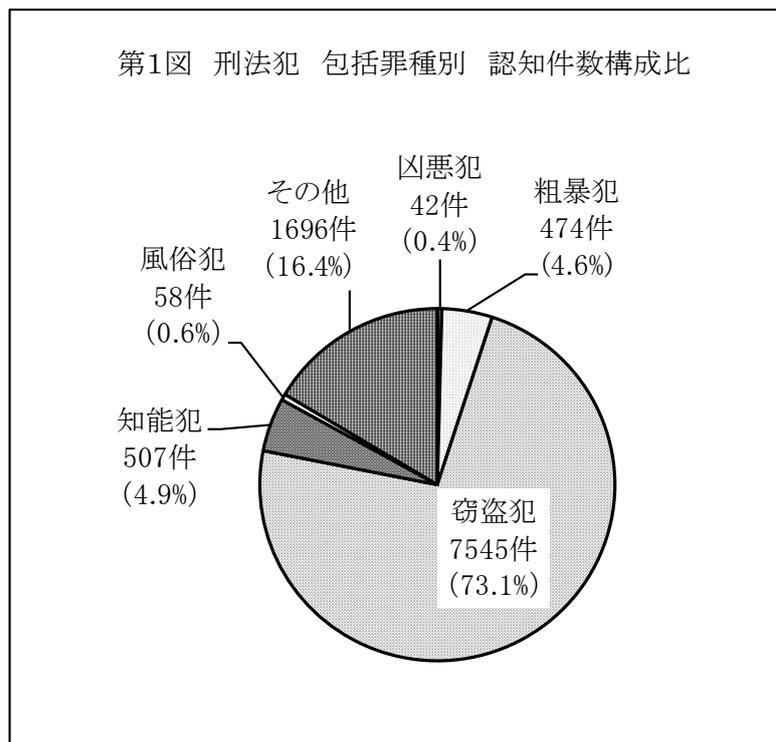
#### ア 概況

令和元年中の刑法犯認知件数は10,322件で、前年に比べ925件(8.2%)減少した。包括罪種別にみると第1表のとおり、すべての包括罪種において減少した。

第1表 刑法犯認知件数増減比較

包括罪種	令和元年		平成30年		増減	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	率
総数	10,322	100.0	11,247	100.0	-925	-8.2
凶悪犯	42	0.4	52	0.5	-10	-19.2
粗暴犯	474	4.6	504	4.5	-30	-6.0
窃盗犯	7,545	73.1	8,248	73.3	-703	-8.5
知能犯	507	4.9	586	5.2	-79	-13.5
風俗犯	58	0.6	64	0.6	-6	-9.4
その他	1,696	16.4	1,793	15.9	-97	-5.4

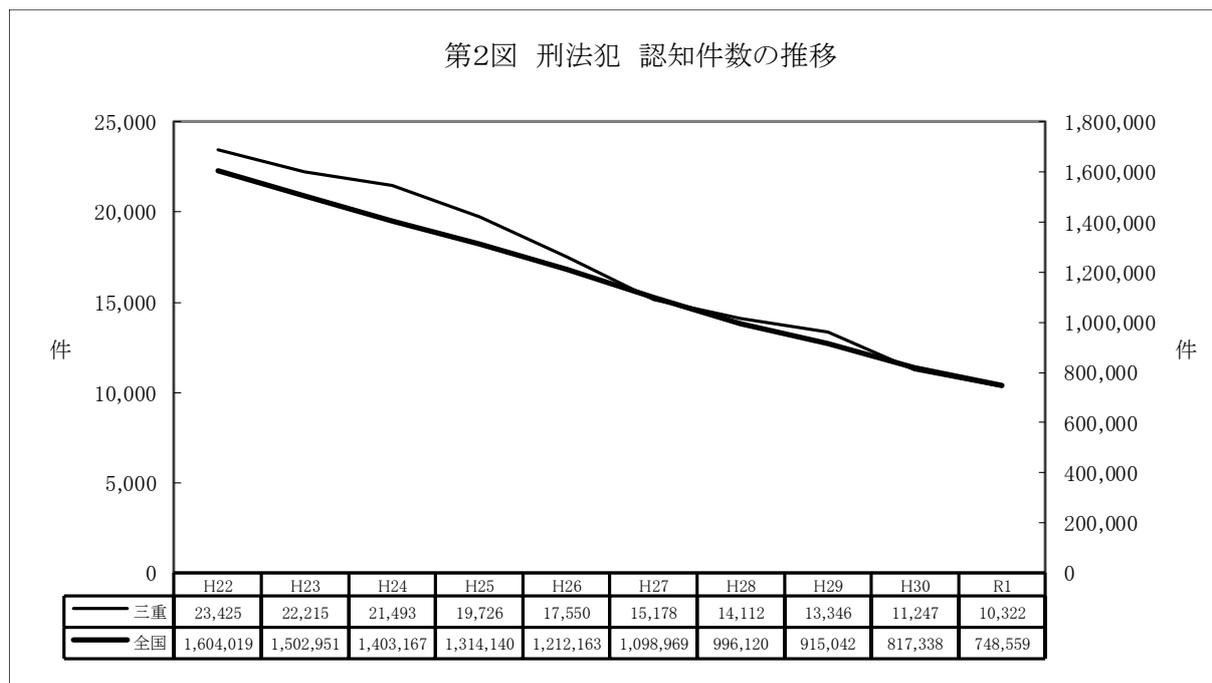
(ア) 刑法犯認知件数の包括罪種別構成比をみると、第1図のとおり、窃盗犯が約7割を占めている。



(イ) 都道府県別にみた刑法犯認知件数の全国順位は第19位(前年第18位)で、全国刑法犯認知件数748,559件の約1.4%を占めている。

また、犯罪率(人口10万人当たりの認知件数・令和元年10月1日現在の推計人口を用いて算出。)は579.6で、全国47都道府県中、12番目に高率であった。

(ウ) 刑法犯認知件数の10年間の推移をみると、第2図のとおりで、平成22年以降、全国、三重ともに年々減少している。



イ 罪種別にみた発生(認知)状況

(ア) 重要犯罪

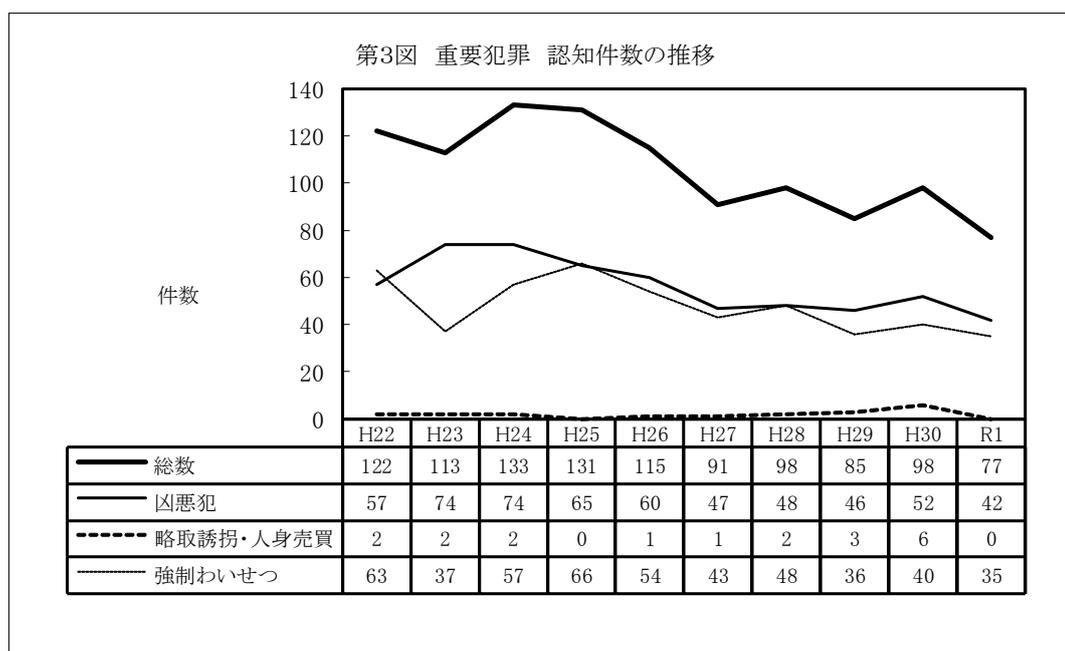
令和元年中の重要犯罪の認知件数は第2表のとおり77件で、前年に比べ、21件(21.4%)減少した。

罪種別にみると、強盗、放火、強制性交等、略取誘拐・人身売買、強制わいせつが減少した。

第2表 重要犯罪認知件数増減比較

区 分	令和元年	平成30年	増 減	
			件 数	率
総 数	77	98	-21	-21.4
殺 人	6	6	±0	±0.0
強 盗	16	17	-1	-5.9
放 火	6	12	-6	-50.0
強 制 性 交 等	14	17	-3	-17.6
略取誘拐・人身売買	-	6	-6	-100.0
強 制 わ い せ つ	35	40	-5	-12.5

過去10年間の認知件数の推移をみると第3図のとおりで、平成24年以降減少傾向を示しており、平成27年以降は100件を下回っている。



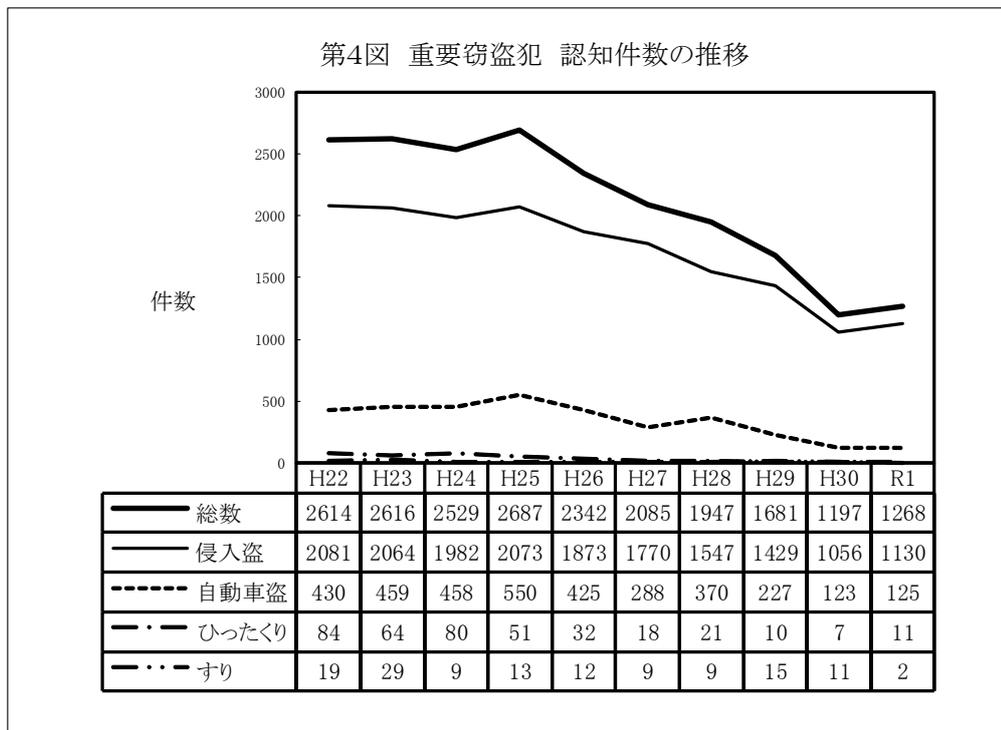
(イ) 重要窃盗犯

令和元年中の重要窃盗犯の認知件数は、第3表のとおり1,268件で、前年に比べ、71件(5.9%)増加した。

第3表 重要窃盗犯認知件数増減比較

区 分	令和元年	平成30年	増 減	
			件 数	率
総 数	1,268	1,197	71	5.9
侵 入 盗	1,130	1,056	74	7.0
住宅対象	516	589	-73	-12.4
その他	614	467	147	31.5
自 動 車 盗	125	123	2	1.6
ひ っ た く り	11	7	4	57.1
す り	2	11	-9	-81.8

過去10年間の認知件数の推移をみると第4図のとおりで、平成26年以降は減少傾向を示している。平成30年は過去10年で最低の件数となったが、令和元年は増加に転じた。



(ウ) 凶悪犯

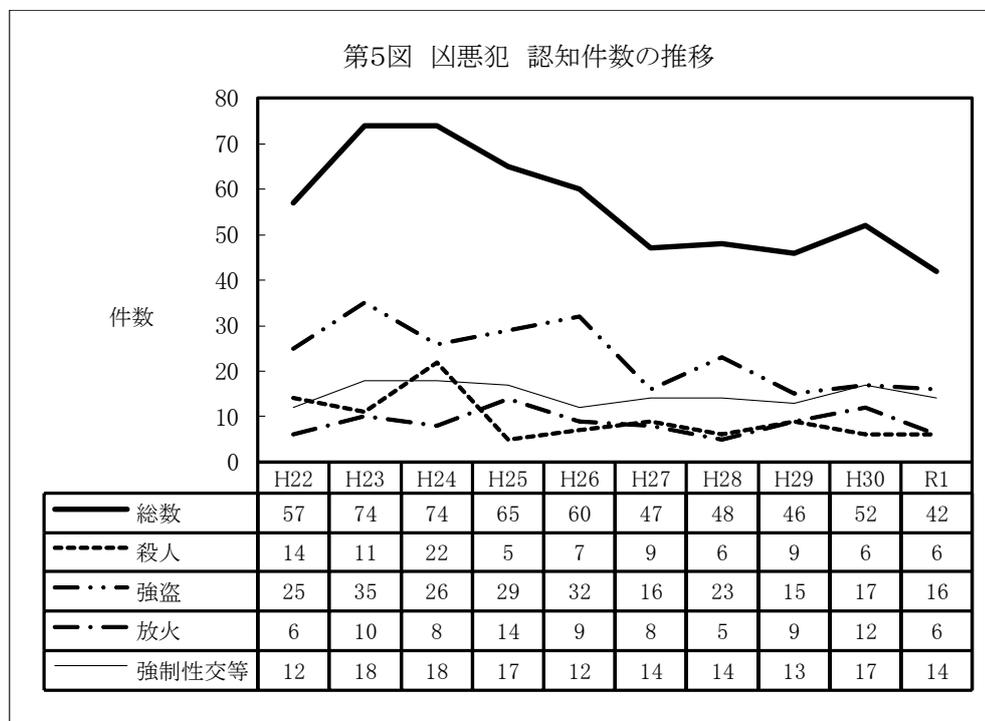
令和元年中の凶悪犯認知件数は、第4表のとおり42件であった。

罪種別にみると、強盗、放火、強制性交等が減少した。

第4表 凶悪犯認知件数増減比較

罪 種	令和元年		平成30年		増 減	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	率
総 数	42	100.0	52	100.0	-10	-19.2
殺 人	6	14.3	6	11.5	±0	±0.0
強 盗	16	38.1	17	32.7	-1	-5.9
放 火	6	14.3	12	23.1	-6	-50.0
強制性交等	14	33.3	17	32.7	-3	-17.6

過去10年間の認知件数の推移をみると第5図のとおりである。平成22年以降、増加と減少を繰り返しているが、総数にあつては平成27年以降は50件前後を推移している。



(エ) 粗暴犯

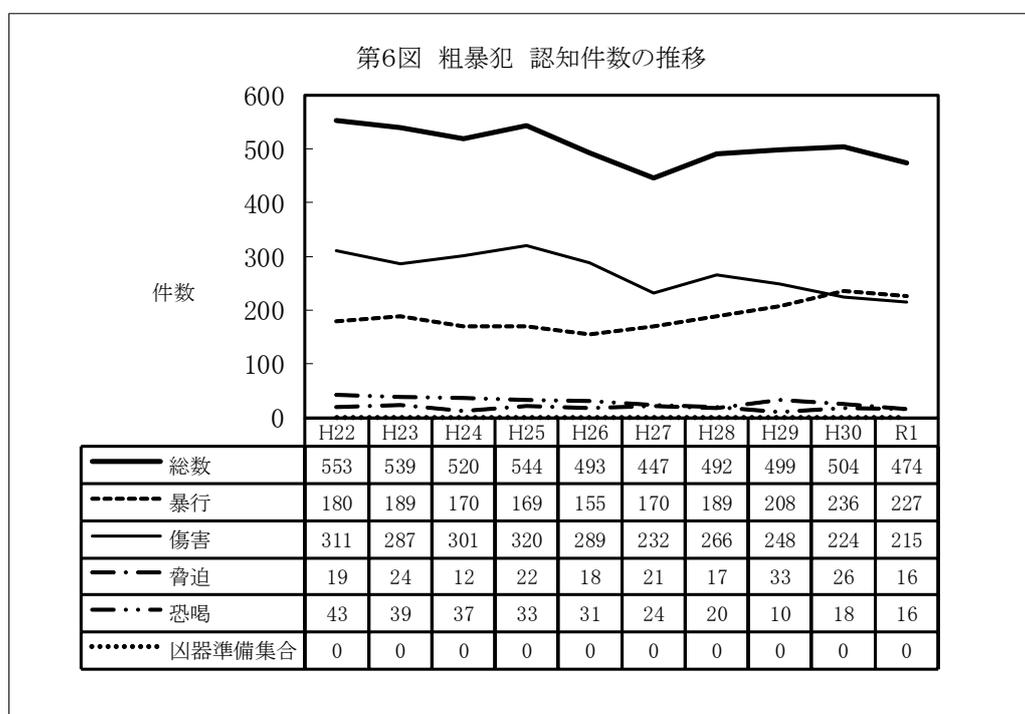
令和元年中の粗暴犯認知件数は、第5表のとおり474件で、前年に比べ30件(6.0%)減少した。

罪種別にみると、凶器準備集合を除くすべての罪種において減少した。

第5表 粗暴犯認知件数増減比較

罪種	令和元年		平成30年		増減	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	率
総数	474	100.0	504	100.0	-30	-6.0
凶器準備集合	—	—	—	—	—	—
暴行	227	47.9	236	46.8	-9	-3.8
傷害	215	45.4	224	44.4	-9	-4.0
脅迫	16	3.4	26	5.2	-10	-38.5
恐喝	16	3.4	18	3.6	-2	-11.1

過去10年間の認知件数の推移をみると第6図のとおりで、減少傾向にあった総数が平成28年以降増加している。平成30年には過去10年で最高の件数となった暴行が、令和元年は減少に転じた。



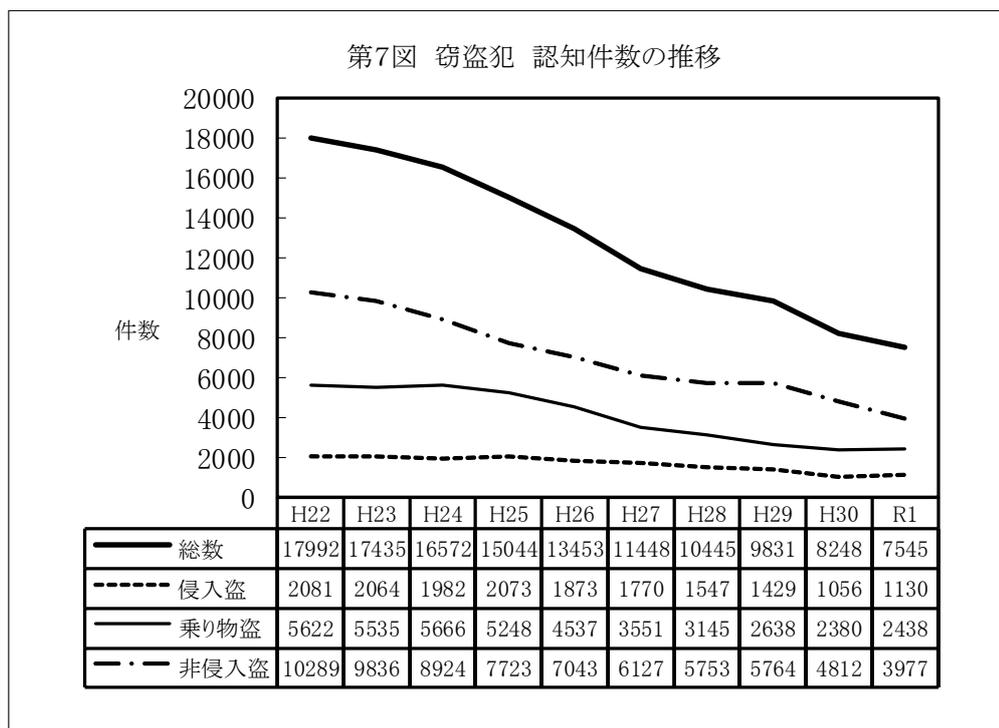
(オ) 窃盗犯

令和元年中の窃盗犯認知件数は、第6表のとおり7,545件で、前年に比べ703件(8.5%)減少した。

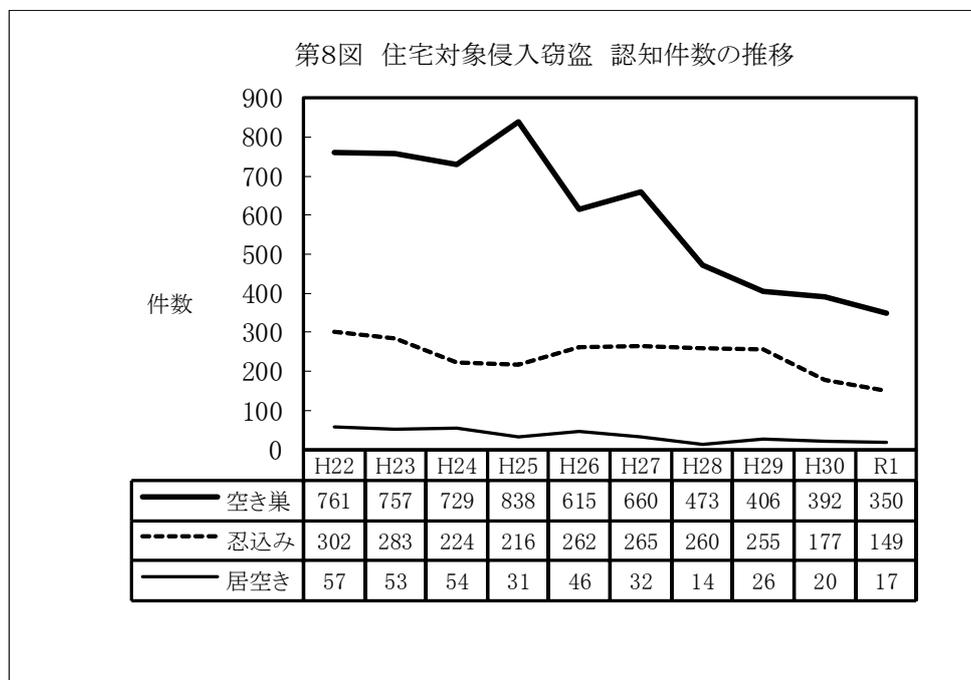
第6表 窃盗犯認知件数増減比較

手 口	令和元年		平成30年		増 減	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	率
総 数	7,545	100.0	8,248	100.0	-703	-8.5
侵 入 盗	1,130	15.0	1,056	12.8	74	7.0
乗 り 物 盗	2,438	32.3	2,380	28.9	58	2.4
非 侵 入 盗	3,977	52.7	4,812	58.3	-835	-17.4

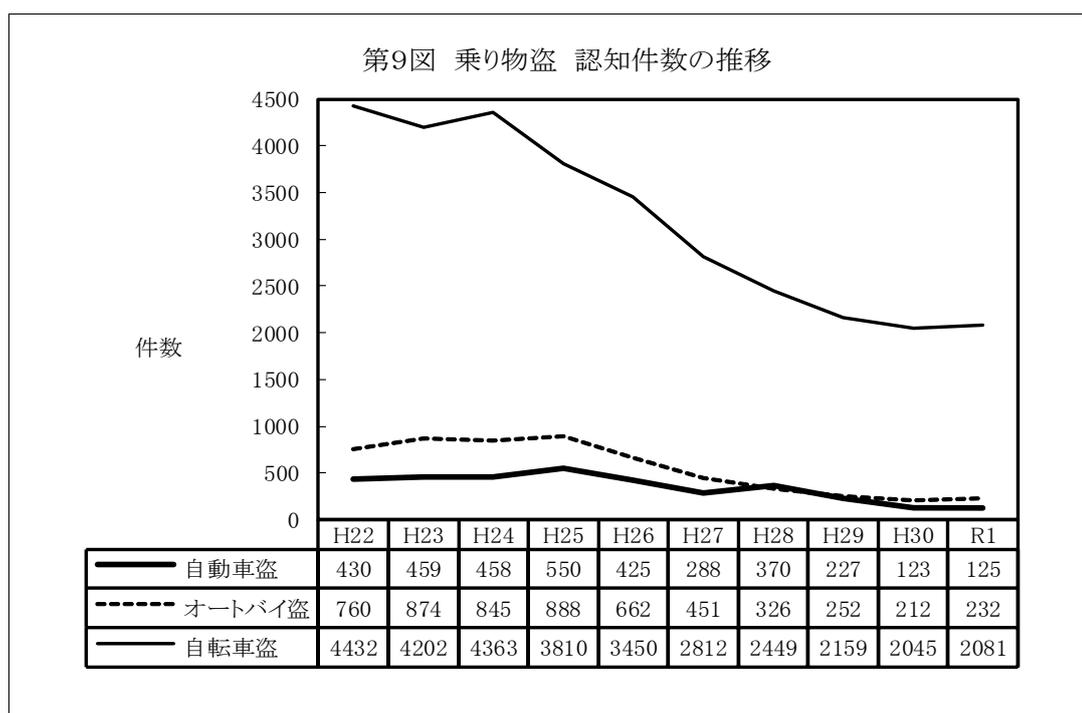
過去10年間の認知件数の推移をみると第7図のとおりである。令和元年は、総数、非侵入盗が過去10年で最低の件数となった。



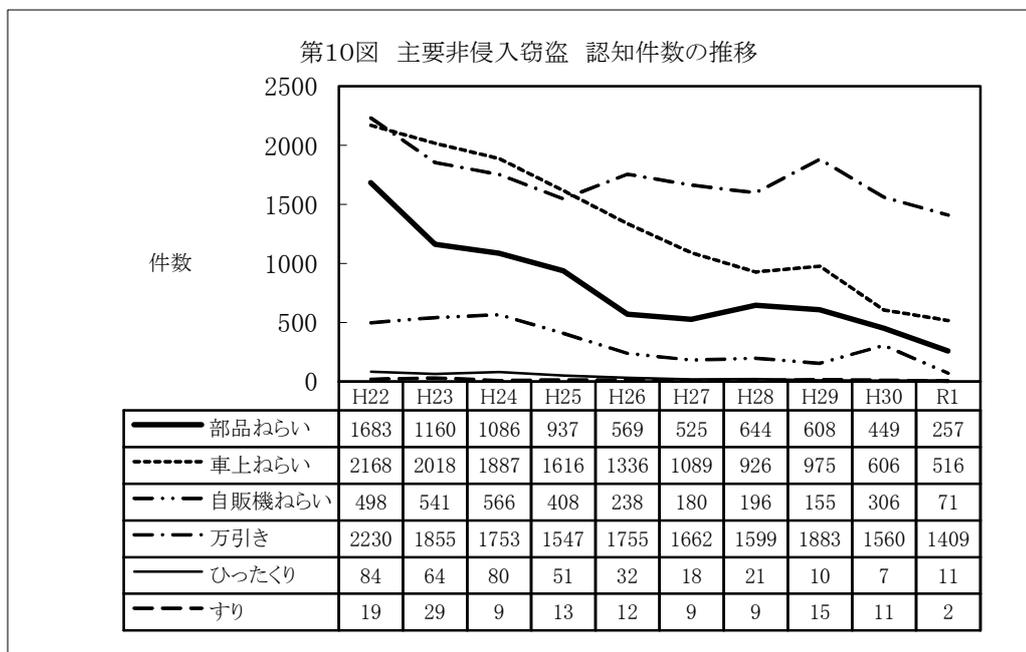
侵入盗の主な手口について過去10年間の認知件数の推移をみると第8図のとおりである。令和元年には空き巣、忍込みが過去10年で最低の件数となった。



乗り物盗について過去10年間の認知件数の推移をみると第9図のとおりである。自動車盗、オートバイ盗、自転車盗は平成30年に過去10年で最低の件数となったが、令和元年は増加に転じた。



非侵入盗の主な手口について過去10年間の認知件数の推移をみると、第10図のとおりである。部品ねらい、車上ねらい、自販機ねらい、万引き、すりは過去10年で最低の件数となった。



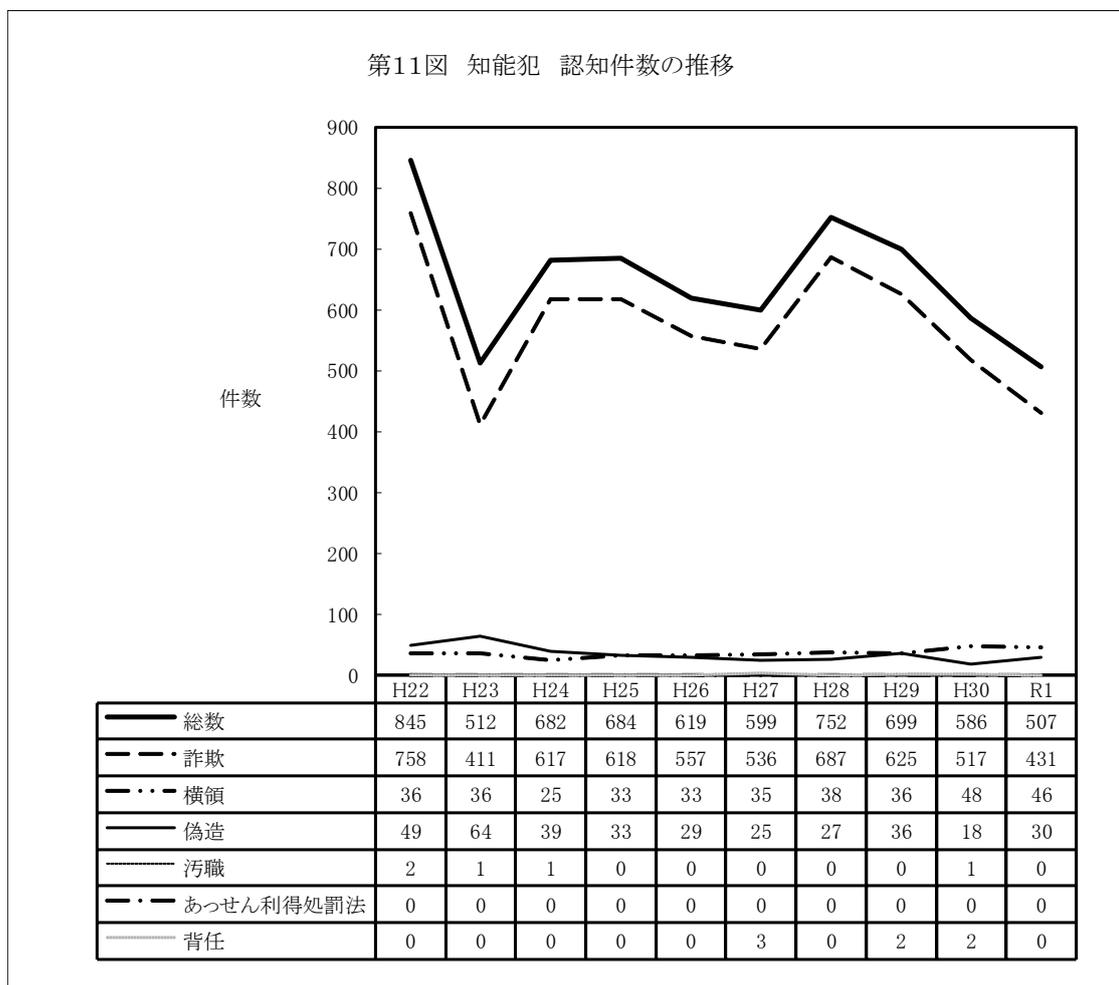
(カ) 知能犯

令和元年中の知能犯認知件数は、第7表のとおり507件で、前年に比べ79件(13.5%)減少した。罪種別にみると、偽造が増加し、詐欺、横領、汚職、背任が減少した。

第7表 知能犯認知件数増減比較

罪種	令和元年		平成30年		増減	
	数	構成比	数	構成比	件数	率
総数	507	100.0	586	100.0	-79	-13.5
詐欺	431	85.0	517	88.2	-86	-16.6
横領	46	9.1	48	8.2	-2	-4.2
偽造	30	5.9	18	3.1	12	66.7
汚職	—	—	1	0.2	-1	-100.0
あっせん利得処罰法	—	—	—	—	—	—
背任	—	—	2	0.3	-2	-100.0

過去10年間の認知件数の推移をみると第11図のとおりである。平成22年以降、詐欺の認知件数は減少と増加を繰り返している。



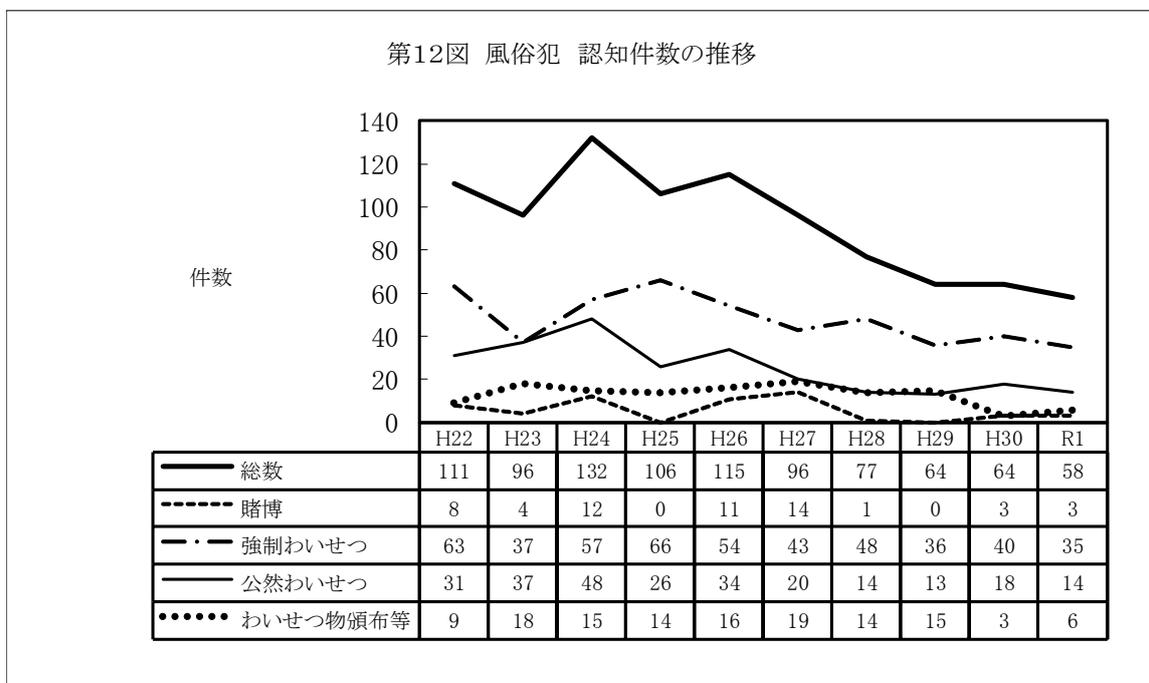
(キ) 風俗犯

令和元年中の風俗犯認知件数は、第8表のとおり58件で、前年に比べ6件(9.4%)減少した。

第8表 風俗犯認知件数増減比較

罪種	令和元年		平成30年		増減	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	率
総数	58	100.0	64	100.0	-6	-9.4
賭博	3	5.2	3	4.7	±0	±0.0
強制わいせつ	35	60.3	40	62.5	-5	-12.5
公然わいせつ	14	24.1	18	28.1	-4	-22.2
わいせつ物頒布等	6	10.3	3	4.7	3	100.0

過去10年間の認知件数の推移をみると第12図のとおりである。風俗犯は過去10年でみると平成24年に最大となったが、それ以降は減少傾向を示し、令和元年は平成24年に比べて総数では半分以下となり、各内訳においても概ね半数以下となった。



(ク) その他の刑法犯

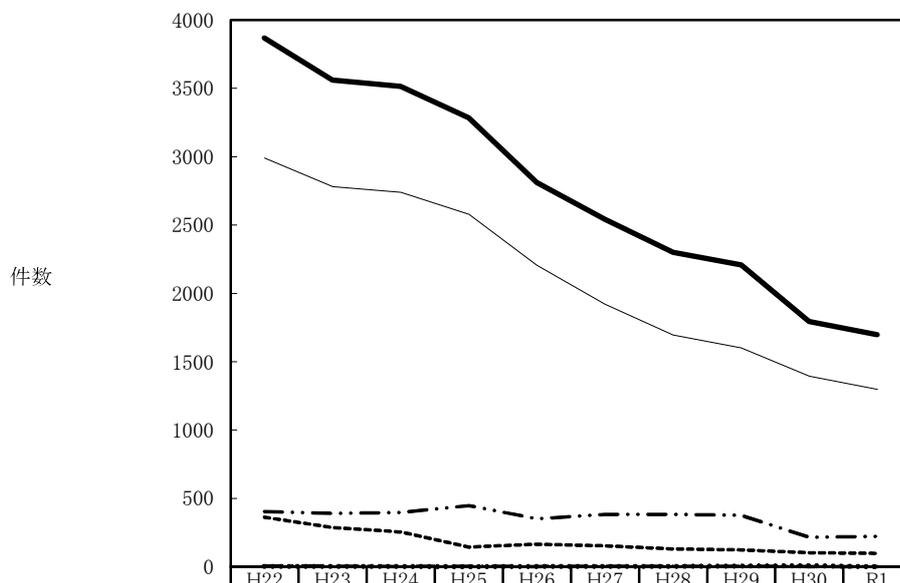
令和元年中のその他の刑法犯は、第9表のとおり1,696件で、前年に比べ97件(5.4%)減少した。略取誘拐・人身売買、占有離脱物横領、器物損壊等が減少している。

第9表 その他の刑法犯認知件数増減比較

罪 種	令和元年		平成30年		増 減	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	率
総 数	1,696	100.0	1,793	100.0	-97	-5.4
うち) 略取誘拐・人身売買	—	—	6	0.3	-6	-100.0
うち) 占有離脱物横領	98	5.8	101	5.6	-3	-3.0
うち) 住 居 侵 入	222	13.1	214	11.9	8	3.7
うち) 逮 捕 監 禁	1	0.1	1	0.1	±0	±0.0
うち) 器 物 損 壊 等	1,297	76.5	1,394	77.7	-97	-7.0

過去10年間の認知件数の推移をみると第13図のとおりである。総数、占有離脱物横領、器物損壊等は過去10年で最低の件数となった。

第13図 その他の主要刑法犯 認知件数の推移



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
—— 総数	3867	3559	3513	3283	2810	2541	2298	2207	1793	1696
----- 占有離脱物横領	361	286	254	143	163	152	128	122	101	98
- · · - 住居侵入	402	388	396	447	349	382	382	374	214	222
- · · · 逮捕監禁	6	2	1	2	1	2	3	2	1	1
—— 器物損壊等	2991	2782	2740	2578	2207	1921	1695	1602	1394	1297
····· 略取誘拐・人身売買	2	2	2	0	1	1	2	3	6	0

ウ 警察署別にみた刑法犯発生(認知)状況

令和元年中の刑法犯認知件数を警察署別にみると、第10表のとおりで、前年と比べ、全18警察署のうち、5警察署で増加し、13警察署で減少した。

- 前年に比べ増加した警察署 …………… いなべ、四日市西、大台、尾鷲、紀宝の5警察署
- 前年に比べ減少した警察署 …………… 桑名、四日市北、四日市南、亀山、鈴鹿、津、津南、松阪、伊勢、鳥羽、熊野、伊賀、名張の13警察署であった。

第10表 警察署別刑法犯認知件数

署 別	令和元年	平成30年	増減数	増減率
桑 名	729	847	-118	-13.9
い な べ	266	242	24	9.9
四 日 市 北	818	882	-64	-7.3
四 日 市 南	1,374	1,411	-37	-2.6
四 日 市 西	337	275	62	22.5
亀 山	207	277	-70	-25.3
鈴 鹿	1,398	1,556	-158	-10.2
津	1,340	1,543	-203	-13.2
津 南	565	638	-73	-11.4
松 阪	1,080	1,274	-194	-15.2
大 台	78	63	15	23.8
伊 勢	715	747	-32	-4.3
鳥 羽	220	350	-130	-37.1
尾 鷲	154	112	42	37.5
熊 野	50	67	-17	-25.4
紀 宝	103	59	44	74.6
伊 賀	475	479	-4	-0.8
名 張	413	425	-12	-2.8
総 数	10,322	11,247	-925	-8.2

(2) 犯罪の被害状況

ア 生命・身体の被害

令和元年中に刑法犯により生命・身体に被害を受けた者の数は第11表のとおり、255人で、前年に比べ5人(1.9%)減少した。

また、県民一人当たりで見ると、1.4人(前年1.5人)となっている。

第11表 死傷被害者数

罪 種	平成27年		平成28年		平成29年		平成30年		令和元年	
	死 者	傷 者	死 者	傷 者	死 者	傷 者	死 者	傷 者	死 者	傷 者
総 数	14	264	9	305	6	283	5	255	2	253
殺 人	8	1	2	4	5	5	3	3	1	5
強盗・強姦等	—	9	—	10	—	12	—	8	—	12
傷 害・同 致 死	1	239	1	279	1	254	—	233	1	223
過 失 致 死 傷	—	1	—	4	—	1	—	5	—	5
業 過(交を除く)	3	4	6	2	—	3	2	1	—	4
放 火・失 火	1	1	—	—	—	1	—	—	—	1
強 制 わ い せ つ	—	8	—	6	—	7	—	4	—	3
遺 棄	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
逮 捕 監 禁	—	1	—	—	—	—	—	1	—	—
恐 喝	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
建 造 物 損 壊	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
決闘罪ニ関スル件	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

イ 財産の被害

令和元年中に認知した財産犯(強盗、恐喝、窃盗、詐欺、横領及び占有離脱物横領をいう。以下同じ)の被害総額は約12億円で、このうち現金被害額は約6億4千万円(総額の53.4%)である。

これを罪種別にみると、第12表、第14図のとおりで、窃盗の被害が約7億1千万円で、被害総額の59.2%を占めており、以下、詐欺、横領、恐喝、占有離脱物横領、強盗の順に被害額が多くなっている。

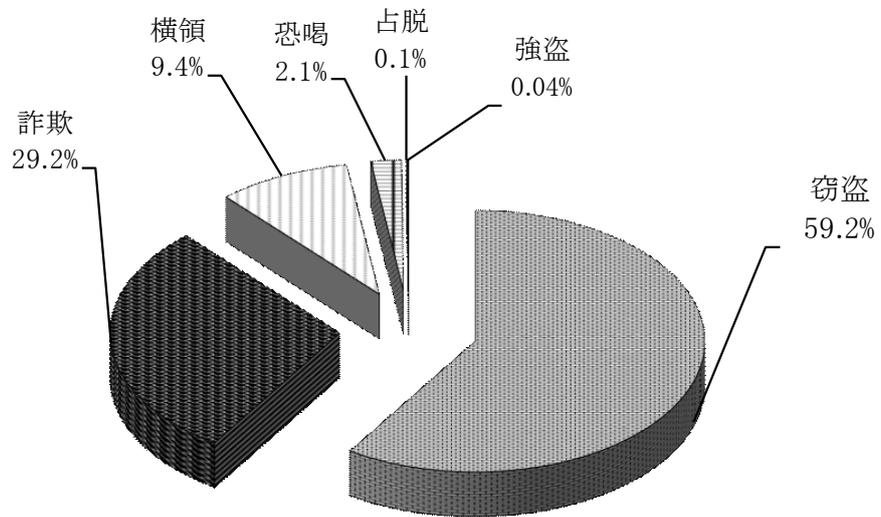
第12表 財産犯の被害額

[単位:千円]

罪 種	平成27年		平成28年		平成29年		平成30年		令和元年	
	総 額	う ち 現 金								
総 数	2,402,270	1,146,662	2,403,654	914,349	1,578,453	562,041	1,455,265	792,377	1,197,053	639,166
強 盗	4,118	3,954	592	532	2,300	842	3,187	2,211	517	302
恐 喝	5,996	3,875	3,052	3,045	1,751	1,098	749	678	25,648	25,598
窃 盗	1,480,183	275,338	1,652,723	293,091	1,165,194	223,437	873,715	262,636	708,191	186,880
詐 欺	884,696	852,728	635,701	596,562	375,781	310,401	531,495	496,398	349,399	322,406
横 領	24,899	10,301	110,328	20,906	31,073	24,810	44,647	29,852	112,122	103,423
占 脱	2,378	466	1,258	213	2,354	1,453	1,472	602	1,176	557

注:「占脱」とは占有離脱物横領をいい、その被害額は「横領」に含まない。

第14図 財産犯の罪種別構成比



(3) 検挙状況

ア 概況

令和元年中の刑法犯検挙状況は第13表のとおり、検挙件数は、3,829件、検挙人員は1,938人で、前年に比べ検挙件数、検挙人員ともに減少した。

包括罪種別に前年と比較すると、風俗犯の検挙件数が増加し、凶悪犯の検挙人員が増加した。

第13表 刑法犯検挙件数・検挙人員

包括罪種	検 挙 件 数				検 挙 人 員			
	令和元年	平成30年	増 減		令和元年	平成30年	増 減	
			数	率			数	率
総 数	3,829	4,964	-1,135	-22.9	1,938	2,210	-272	-12.3
凶 悪 犯	40	50	-10	-20.0	45	35	10	28.6
粗 暴 犯	393	396	-3	-0.8	388	393	-5	-1.3
窃 盗 犯	2,609	3,623	-1,014	-28.0	1,115	1,228	-113	-9.2
知 能 犯	432	518	-86	-16.6	164	212	-48	-22.6
風 俗 犯	59	52	7	13.5	53	149	-96	-64.4
そ の 他	296	325	-29	-8.9	173	193	-20	-10.4

刑法犯検挙件数、検挙人員の過去10年間の推移は、第14表のとおりである。検挙件数は平成23年をピークに減少傾向を示しており、令和元年は過去10年で最低の検挙件数となった。また、検挙人員も、平成22年以降は減少傾向を示しており、令和元年は成人、少年ともに過去10年で最低の検挙人員となった。

第14表 刑法犯検挙状況

年 別	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	
検 挙 件 数	6,480	7,191	5,471	6,048	5,395	4,865	4,557	5,717	4,964	3,829	
検 挙 人 員	総 数	3,320	3,066	2,898	2,448	2,447	2,278	2,159	2,193	2,210	1,938
	成 人	2,347	2,139	2,157	1,855	1,877	1,890	1,865	1,945	1,970	1,723
	少 年	973	927	741	593	570	388	294	248	240	215
構 成 比	29.3	30.2	25.6	24.2	23.3	17.0	13.6	11.3	10.9	11.1	

注：検挙人員は検挙時年齢による。

刑法犯検挙人員1,938人を犯行時の年齢別にみると第15表のとおりで、10歳代、30歳代、40歳代の人員が過去10年間で最低の人員となった。

第15表 刑法犯犯行時の年齢別検挙人員の推移

年別 年齢別	平成 22	平成 23	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	令和 元
総 数	3,320	3,066	2,898	2,448	2,447	2,278	2,159	2,193	2,210	1,938
14～19歳	977	937	750	600	577	397	296	259	245	219
20～29歳	440	424	447	308	335	291	319	327	289	290
30～39歳	410	376	373	359	324	322	316	318	314	262
40～49歳	411	396	390	343	334	350	380	339	352	326
50歳以上	1,082	933	938	838	877	918	848	950	1,010	841

イ 罪種別にみた検挙状況

(ア) 重要犯罪

令和元年中の重要犯罪の検挙は第16表のとおり、検挙件数は73件、検挙人員は70人、検挙率は94.8%で、前年に比べ、検挙人員が増加した。検挙率は8.1ポイント上昇した。

第16表 重要犯罪検挙状況

区 分	検 挙 件 数				検 挙 人 員		検 挙 率	
	令和 元年	平成 30年	増 減		令和 元年	平成 30年	令和 元年	平成 30年
			数	率				
総 数	73	85	-12	-14.1	70	61	94.8	86.7
殺 人	8	4	4	100.0	7	6	133.3	66.7
強 盗	15	11	4	36.4	22	12	93.8	64.7
放 火	6	11	-5	-45.5	6	7	100.0	91.7
強 制 性 交 等	11	24	-13	-54.2	10	10	78.6	141.2
略取誘拐・人身売買	-	6	-6	-100.0	-	5	-	100.0
強 制 わ い せ つ	33	29	4	13.8	25	21	94.3	72.5

(イ) 重要窃盗犯

令和元年中の重要窃盗犯の検挙は第17表のとおり、検挙件数は924件、検挙人員は104人、検挙率は72.9%で、前年に比べ、検挙件数は減少し、検挙人員は増加した。検挙率は前年より10.4ポイント減少した。

第17表 重要窃盗犯検挙状況

区 分	検 挙 件 数				検 挙 人 員		検 挙 率	
	令和 元年	平成 30年	増 減		令和 元年	平成 30年	令和 元年	平成 30年
			数	率				
総 数	924	997	-73	-7.3	104	85	72.9	83.3
侵 入 盗	866	847	19	2.2	81	61	76.6	80.2
住宅対象	555	476	79	16.6	39	23	107.6	80.8
そ の 他	311	371	-60	-16.2	42	38	50.7	79.4
自 動 車 盗	55	138	-83	-60.1	21	20	44.0	112.2
ひ っ た く り	2	-	2	-	2	-	18.2	-
す り	1	12	-11	-91.7	-	4	50.0	109.1

(ウ) 凶悪犯

令和元年中の凶悪犯の検挙は、第18表のとおり、前年に比べ、検挙件数が減少し、検挙人員は増加した。

第18表 凶悪犯検挙状況

区 分	検 挙 件 数				検 挙 人 員			
	令和 元年	平成 30年	増 減		令和 元年	平成 30年	増 減	
			数	率			数	率
総 数	40	50	-10	-20.0	45	35	10	28.6
殺 人	8	4	4	100.0	7	6	1	16.7
強 盗	15	11	4	36.4	22	12	10	83.3
放 火	6	11	-5	-45.5	6	7	-1	-14.3
強制性交等	11	24	-13	-54.2	10	10	±0	±0.0

(エ) 粗暴犯

令和元年中の粗暴犯の検挙は、第19表のとおり、前年に比べ、検挙件数、検挙人員ともに減少した。

第19表 粗暴犯検挙状況

区 分	検 挙 件 数				検 挙 人 員			
	令和 元年	平成 30年	増 減		令和 元年	平成 30年	増 減	
			数	率			数	率
総 数	393	396	-3	-0.8	388	393	-5	-1.3
凶器準備集合	-	-	-	-	-	-	-	-
暴 行	197	195	2	1.0	192	182	10	5.5
傷 害	170	163	7	4.3	173	172	1	0.6
脅 迫	14	23	-9	-39.1	11	21	-10	-47.6
恐 喝	12	15	-3	-20.0	12	18	-6	-33.3

## (オ) 窃盗犯

令和元年中の窃盗犯の検挙は第20表のとおりである。前年に比べ、検挙件数、検挙人員ともに減少した。検挙件数を手口別にみると、忍込みの増加が目立ち、部品ねらい、車上ねらい、自動販売機ねらいが大きく減少した。

第20表 窃盗犯検挙状況

区 分	検 挙 件 数				検 挙 人 員			
	令和 元年	平成 30年	増 減		令和 元年	平成 30年	増 減	
			数	率			数	率
総 数	2,609	3,623	-1,014	-28.0	1,115	1,228	-113	-9.2
侵 入 盗	866	847	19	2.2	81	61	20	32.8
空 き 巢	269	323	-54	-16.7	32	16	16	100.0
忍 込 み	276	149	127	85.2	4	5	-1	-20.0
居 空 き	10	4	6	150.0	3	2	1	50.0
金 庫 破 り	12	9	3	33.3	6	-	6	-
学 校 荒 し	7	28	-21	-75.0	-	3	-3	-100.0
事 務 所 荒 し	45	42	3	7.1	2	7	-5	-71.4
出 店 荒 し	110	113	-3	-2.7	15	8	7	87.5
そ の 他	137	179	-42	-23.5	19	20	-1	-5.0
乗 り 物 盗	165	265	-100	-37.7	84	91	-7	-7.7
自 動 車 盗	55	138	-83	-60.1	21	20	1	5.0
オ ー ト バ イ 盗	22	36	-14	-38.9	12	22	-10	-45.5
自 転 車 盗	88	91	-3	-3.3	51	49	2	4.1
非 侵 入 盗	1,578	2,511	-933	-37.2	950	1,076	-126	-11.7
部 品 ね ら い	57	375	-318	-84.8	6	12	-6	-50.0
車 上 ね ら い	78	311	-233	-74.9	12	10	2	20.0
ひ っ た く り	2	-	2	-	2	-	2	-
す り	1	12	-11	-91.7	-	4	-4	-100.0
自 動 販 売 機 ね ら い	24	269	-245	-91.1	4	4	-	-
万 引 き	818	878	-60	-6.8	701	784	-83	-10.6
置 引 き	94	156	-62	-39.7	92	116	-24	-20.7
そ の 他	504	510	-6	-1.2	133	146	-13	-8.9

(カ) 知能犯

令和元年中の知能犯の検挙は、第21表のとおり、前年に比べ検挙件数、検挙人員ともに減少した。

第21表 知能犯検挙状況

区 分	検 挙 件 数				検 挙 人 員			
	令和 元年	平成 30年	増 減		令和 元年	平成 30年	増 減	
			数	率			数	率
総 数	432	518	-86	-16.6	164	212	-48	-22.6
詐 欺	371	456	-85	-18.6	121	150	-29	-19.3
横 領	35	45	-10	-22.2	25	38	-13	-34.2
偽 造	26	13	13	100.0	18	18	±0	±0.0
汚 職	-	1	-1	-100.0	-	2	-2	-100.0
あっせん利得処罰法	-	-	±0	±0.0	-	-	±0	±0.0
背 任	-	3	-3	-100.0	-	4	-4	-100.0

(キ) 風俗犯

令和元年中の風俗犯の検挙は、第22表のとおり、前年に比べ検挙件数は増加し、検挙人員は大幅に減少した。

第22表 風俗犯検挙状況

区 分	検 挙 件 数				検 挙 人 員			
	令和 元年	平成 30年	増 減		令和 元年	平成 30年	増 減	
			数	率			数	率
総 数	59	52	7	13.5	53	149	-96	-64.4
賭 博	2	3	-1	-33.3	9	115	-106	-92.2
強制わいせつ	33	29	4	13.8	25	21	4	19.0
公然わいせつ	17	15	2	13.3	14	11	3	27.3
わいせつ物頒布等	7	5	2	40.0	5	2	3	150.0

(ク) その他の刑法犯

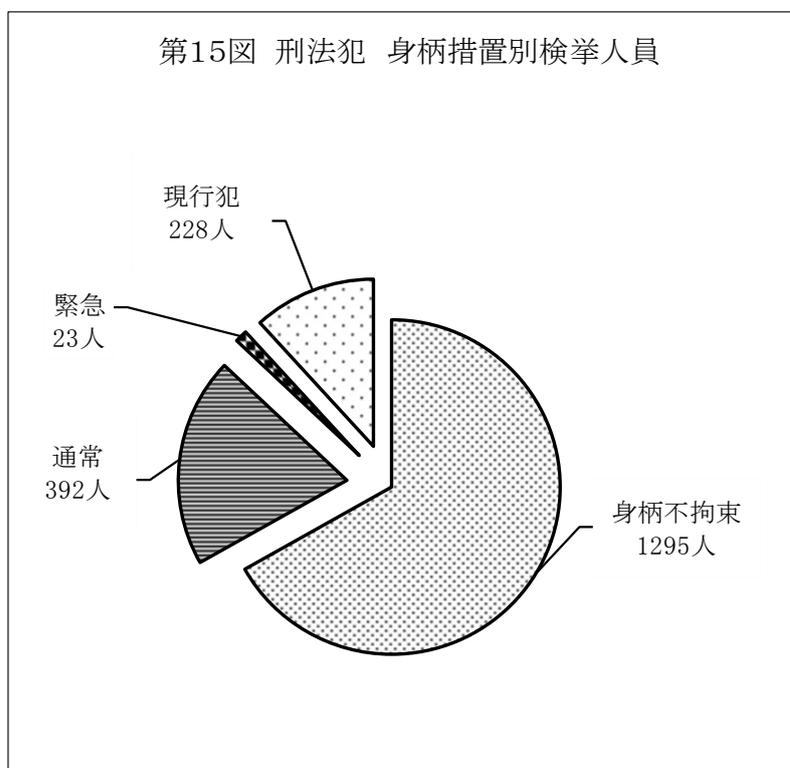
令和元年中のその他の刑法犯の検挙は、第23表のとおり、前年に比べ検挙件数、検挙人員ともに減少した。

第23表 その他の刑法犯検挙状況

区 分	検 挙 件 数				検 挙 人 員			
	令和 元年	平成 30年	増 減		令和 元年	平成 30年	増 減	
			数	率			数	率
総 数	296	325	-29	-8.9	173	193	-20	-10.4
うち) 略取誘拐・人身売買	-	6	-6	-100.0	-	5	-5	-100.0
うち) 占有離脱物横領	79	80	-1	-1.3	74	73	1	1.4
うち) 住居侵入	83	89	-6	-6.7	20	31	-11	-35.5
うち) 逮捕監禁	-	1	-1	-100.0	-	1	-1	-100.0
うち) 器物損壊等	94	100	-6	-6.0	46	42	4	9.5

ウ 身柄措置別検挙状況

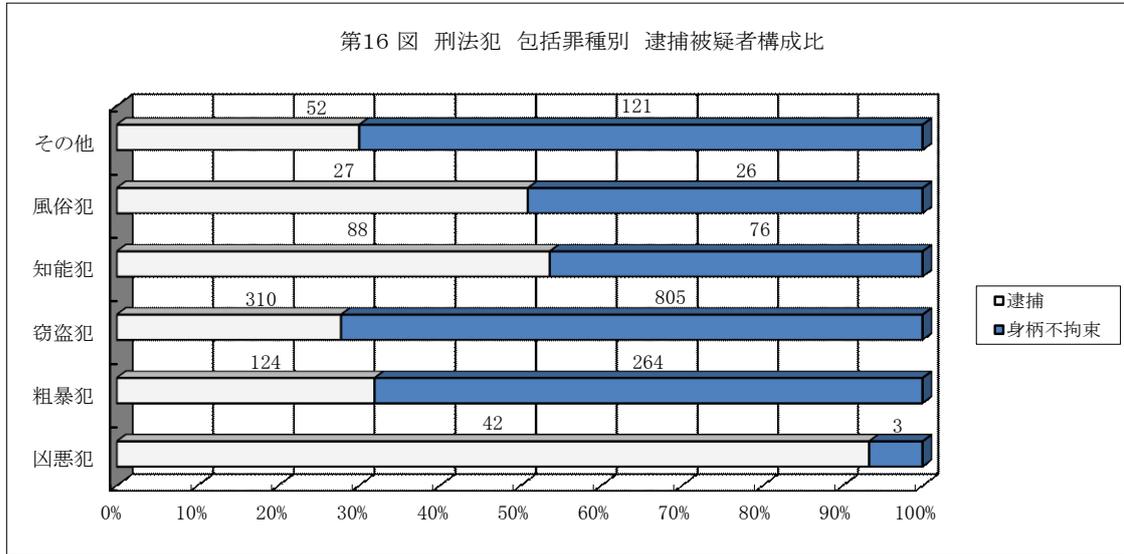
令和元年中の刑法犯検挙人員1,938人を身柄措置別にみると、第15図、第24表のとおりで、身柄不拘束者は1,295人、逮捕人員は643人であった。



第24表 刑法犯包括罪種別身柄措置別検挙人員

身柄措置別 包括罪種別		総 数	身柄不拘束	逮 捕 計	逮 捕 計		
					現行犯逮捕	緊急逮捕	通常逮捕
総 数	令和元	1,938	1,295	643	228	23	392
	平成30	2,210	1,598	612	201	27	384
	増減数	-272	-303	31	27	-4	8
凶 悪 犯	令和元	45	3	42	12	3	27
	平成30	35	4	31	5	6	20
	増減数	10	-1	11	7	-3	7
粗 暴 犯	令和元	388	264	124	48	1	75
	平成30	393	279	114	34	1	79
	増減数	-5	-15	10	14	±0	-4
窃 盗 犯	令和元	1,115	805	310	124	16	170
	平成30	1,228	955	273	104	15	154
	増減数	-113	-150	37	20	1	16
うち) 侵入盗	令和元	81	12	69	9	3	57
	平成30	61	8	53	5	2	46
	増減数	20	4	16	4	1	11
知 能 犯	令和元	164	76	88	15	3	70
	平成30	212	99	113	16	1	96
	増減数	-48	-23	-25	-1	2	-26
風 俗 犯	令和元	53	26	27	-	-	27
	平成30	149	135	14	5	-	9
	増減数	-96	-109	13	-5	±0	18
そ の 他	令和元	173	121	52	29	-	23
	平成30	193	126	67	37	4	26
	増減数	-20	-5	-15	-8	-4	-3

また、包括罪種別に逮捕被疑者の構成比をみると第16図のとおりで、逮捕被疑者の占める率が最も高いのは凶悪犯で、最も低いのは窃盗犯である。



### エ 女性に係る犯罪

令和元年中における女性被害に係る刑法犯認知件数は第25表のとおり、2,466件で、前年に比べ121件(4.7%)減少した。包括罪種別にみると、風俗犯では被害の約93%、凶悪犯では被害の約51%が女性である。

第25表 女性被害に係る刑法犯認知件数前年対比

区分	令和元年			平成30年			増減		
	人の被害			人の被害			人の被害		
	の計	うち)女	構成比	の計	うち)女	構成比	の計	うち)女	ポイント
総数	7,185	2,466	34.3	7,656	2,587	33.8	-471	-121	0.5
凶悪犯	37	19	51.4	42	21	50.0	-5	-2	1.4
粗暴犯	473	204	43.1	504	225	44.6	-31	-21	-1.5
窃盗犯	5,124	1,644	32.1	5,414	1,668	30.8	-290	-24	1.3
侵入盗	842	234	27.8	810	188	23.2	32	46	4.6
乗り物盗	2,373	777	32.7	2,332	725	31.1	41	52	1.6
非侵入盗	1,909	633	33.2	2,272	755	33.2	-363	-122	0.0
知能犯	248	115	46.4	277	121	43.7	-29	-6	2.7
風俗犯	41	38	92.7	52	49	94.2	-11	-11	-1.5
その他	1,262	446	35.3	1,367	503	36.8	-105	8	-1.5

女性被害に係る刑法犯認知件数の過去10年間の推移をみると、第26表のとおりで、平成22年以降、減少傾向を示しており、令和元年には過去10年で最低の件数となった。

第26表 女性被害に係る刑法犯認知件数の推移

区 分	平成 22	平成 23	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	令和 元
総 数	5,955	5,395	5,393	4,952	4,142	3,387	3,089	3,035	2,587	2,466
凶 悪 犯	24	37	31	32	25	27	24	27	21	19
粗 暴 犯	196	175	147	184	160	166	198	226	225	204
窃 盗 犯	4,460	4,121	4,184	3,675	3,040	2,371	2,070	1,971	1,668	1,644
侵入盗	338	365	346	430	374	313	269	270	188	234
乗り物盗	1,993	1,884	2,026	1,727	1,461	1,142	931	842	725	777
非侵入盗	2,129	1,872	1,812	1,518	1,205	916	870	859	755	633
知 能 犯	173	122	90	159	158	168	146	190	121	115
風 俗 犯	89	61	87	82	61	48	51	41	49	38
そ の 他	1,013	879	854	820	698	607	600	580	503	446

令和元年中における刑法犯検挙人員のうち、女性の検挙人員は第27表のとおり、458人で、前年に比べ、30人(6.1%)減少した。刑法犯検挙人員に占める女性の割合は23.6%で、前年に比べ1.5ポイント上昇した。

第27表 女性の刑法犯検挙人員の推移

区 分	平成 22	平成 23	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	令和 元
総 数	800	715	604	544	517	508	462	487	488	458
凶 悪 犯	2	6	6	6	4	3	6	6	3	3
粗 暴 犯	18	22	15	30	16	20	28	24	28	39
窃 盗 犯	690	609	501	436	436	425	376	406	375	368
侵入盗	9	5	6	8	1	6	3	1	2	4
乗り物盗	24	23	19	14	7	12	7	4	2	10
非侵入盗	657	581	476	414	428	407	366	401	371	354
知 能 犯	42	30	44	42	35	25	28	32	46	33
風 俗 犯	1	-	4	4	4	4	4	1	14	-
そ の 他	47	48	34	26	22	31	20	18	22	15

オ 高齢者に係る犯罪

令和元年中における高齢者被害に係る刑法犯認知件数は第28表のとおり、1,243件で、前年に比べ49件(4.1%)の増加となった。

刑法犯全体に占める高齢者の割合は12.0%で、前年に比べ、1.4ポイント上昇した。

高齢者被害に係る刑法犯認知件数の10年間の推移をみると、令和元年は総数、粗暴犯、窃盗犯、その他の刑法犯に占める高齢者の割合が過去10年間で最高の構成比となった。

第28表 高齢者被害に係る刑法犯認知件数の推移

区 分	平成 22	平成 23	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	令和 元
総 数	2,230	2,316	2,150	2,170	2,016	1,696	1,621	1,523	1,194	1,243
構成比	9.5	10.4	10.0	11.0	11.5	11.2	11.5	11.4	10.6	12.0
凶 悪 犯	5	9	10	5	10	7	2	8	8	6
構成比	8.8	12.2	13.5	7.7	16.7	14.9	4.2	17.4	15.4	14.3
粗 暴 犯	31	31	24	29	37	26	35	35	40	45
構成比	5.6	5.8	4.6	5.3	7.5	5.8	7.1	7.0	7.9	9.5
窃 盗 犯	1,670	1,851	1,684	1,631	1,510	1,263	1,140	1,096	831	857
構成比	9.3	10.6	10.2	10.8	11.2	11.0	10.9	11.1	10.1	11.4
知 能 犯	113	75	65	123	109	124	139	105	83	79
構成比	13.4	14.6	9.5	18.0	17.6	20.7	18.5	15.0	14.2	15.6
風 俗 犯	-	1	-	-	-	-	-	-	2	-
構成比	-	1.0	-	-	-	-	-	-	3.1	-
そ の 他	411	349	367	382	350	276	305	279	230	256
構成比	10.6	9.8	10.4	11.6	12.5	10.9	13.3	12.6	12.8	15.1

\* 構成比は総数に占める高齢者の割合をいう。

令和元年中における刑法犯検挙人員のうち、高齢者の検挙人員は第29表のとおり、457人で、全体に占める割合は23.6%である。

第29表 高齢者検挙人員の推移

区 分	平成 22	平成 23	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	令和 元
総 数	548	461	464	419	470	495	486	510	558	457
構成比	16.5	15.0	16.0	17.1	19.2	21.7	22.5	23.3	25.2	23.6
凶 悪 犯	3	3	4	3	3	3	2	5	4	4
構成比	6.7	6.4	7.0	7.7	5.6	7.3	5.4	13.5	11.4	8.9
粗 暴 犯	15	21	27	31	32	43	34	44	59	55
構成比	4.2	6.3	7.7	8.9	9.4	12.7	9.4	12.0	15.0	14.2
窃 盗 犯	454	395	380	336	388	391	400	415	405	340
構成比	21.0	19.8	20.7	22.0	25.7	27.3	30.0	30.4	33.0	30.5
知 能 犯	20	9	7	19	19	13	11	17	26	16
構成比	9.8	4.6	3.4	8.9	9.6	8.8	7.0	9.7	12.3	9.8
風 俗 犯	8	2	8	5	3	4	8	3	31	5
構成比	12.5	3.8	8.9	7.6	3.9	7.4	14.3	9.1	20.8	9.4
そ の 他	48	31	38	25	25	41	31	26	33	37
構成比	10.0	7.0	10.7	10.0	9.3	15.6	14.5	12.0	17.1	21.4

\* 構成比は総数に占める高齢者の割合をいう。

## 2 特別法犯送致状況

令和元年中における特別法犯の検挙状況をみると、検挙件数は603件、検挙人員は473人で、前年に比べ、検挙件数は118件(16.4%)減少し、検挙人員は65人(12.1%)減少した。

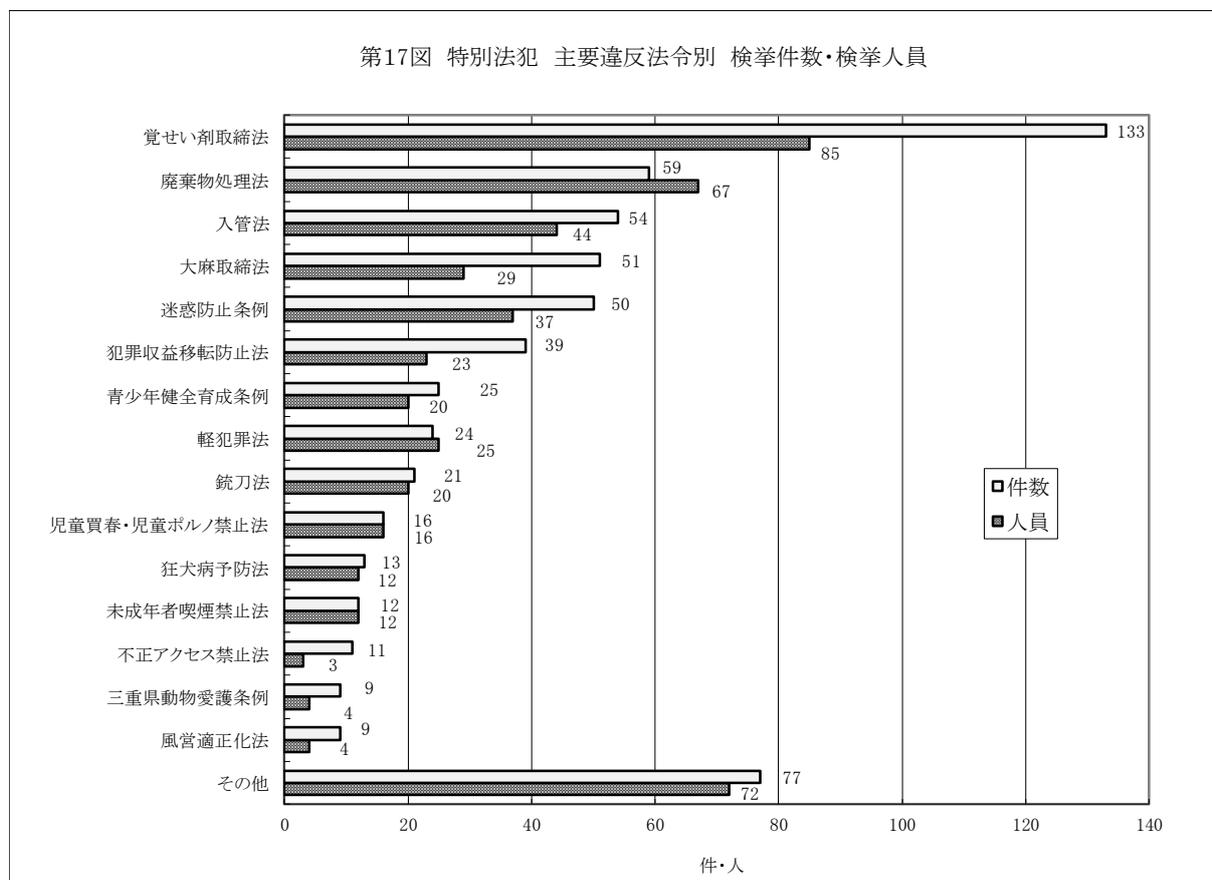
違反法令別に前年と比較すると、検挙件数は第30表のとおり、入管法、大麻取締法、廃棄物処理法等が増加し、軽犯罪法、犯罪収益移転防止法等が減少した。

第30表 特別法犯送致状況

違 反 法 令 別	検 挙 件 数			検 挙 人 員		
	令和元年	平成30年	増減数	令和元年	平成30年	増減数
公 職 選 挙 法 [0001]	2	-	2	13	-	13
政 治 資 金 規 正 法 [0002]	1	-	1	2	-	2
入 管 法 [0123]	54	45	9	44	39	5
軽 犯 罪 法 [0240]	24	52	-28	25	52	-27
迷 惑 防 止 条 例 [0242]	50	68	-18	37	54	-17
動 物 愛 護 管 理 法 [0243]	5	2	3	4	2	2
ス ト ー カ ー 規 制 法 [0245]	5	20	-15	5	15	-10
私 事 性 の 画 像 被 害 防 止 法 [0249]	1	1	±0	-	-	±0
風 営 適 正 化 法 [0460]	9	12	-3	4	17	-13
売 春 防 止 法 [0461]	-	5	-5	-	1	-1
児 童 福 祉 法 [1080]	1	1	±0	1	1	±0
未 成 年 者 飲 酒 禁 止 法 [1081]	-	2	-2	-	2	-2
未 成 年 者 喫 煙 禁 止 法 [1082]	12	21	-9	12	22	-10
青 少 年 健 全 育 成 条 例 [1083]	25	26	-1	20	23	-3
児 童 買 春 ・ 児 童 ポ ル ノ 禁 止 法 [1085]	16	34	-18	16	22	-6
出 資 法 [1300]	3	1	2	-	1	-1
貸 金 業 法 [1303]	3	1	2	3	-	3
犯 罪 収 益 移 転 防 止 法 [1305]	39	68	-29	23	36	-13
建 設 業 法 [1412]	-	1	-1	-	-	±0
建 築 基 準 法 [1413]	-	2	-2	-	1	-1
銃 刀 法 [2160]	21	39	-18	20	32	-12
狩 猟 法 [2161]	5	2	3	4	1	3
火 薬 類 取 締 法 [2163]	1	-	1	1	-	1
麻 薬 等 取 締 法 [2280]	3	5	-2	-	-	±0
大 麻 取 締 法 [2282]	51	40	11	29	28	1

違 反 法 令 別	検 挙 件 数			検 挙 人 員		
	令和元年	平成30年	増減数	令和元年	平成30年	増減数
覚 せ い 剤 取 締 法 [2283]	133	149	-16	85	83	2
医 薬 品 医 療 機 器 等 法 [2284]	1	-	1	-	-	±0
毒 劇 物 法 [2285]	2	3	-1	2	4	-2
麻 薬 等 特 例 法 [2288]	3	11	-8	1	1	±0
医 師 法 [2400]	-	7	-7	-	2	-2
食 品 衛 生 法 [2520]	1	1	±0	-	-	±0
廃 棄 物 処 理 法 [2538]	59	49	10	67	55	12
狂 犬 病 予 防 法 [2546]	13	7	6	12	7	5
建 設 資 材 再 資 源 化 法 [2556]	1	1	±0	-	-	±0
労 働 基 準 法 [5510]	-	1	-1	-	1	-1
職 業 安 定 法 [5511]	3	-	3	-	-	±0
不 正 競 争 防 止 法 [5643]	3	1	2	3	1	2
労 働 者 派 遣 法 [5647]	-	1	-1	-	1	-1
銀 行 法 [6460]	4	-	4	3	1	2
割 賦 販 売 法 [6582]	1	-	1	-	-	±0
森 林 法 [7515]	7	5	2	7	5	2
漁 業 法 [7518]	5	6	-1	6	9	-3
種 の 保 存 法 [7524]	2	6	-4	2	4	-2
航 空 法 [7755]	1	-	1	1	-	1
電 波 法 [8581]	5	4	1	5	4	1
不 正 ア ク セ ス 禁 止 法 [8586]	11	7	4	3	4	-1
商 標 法 [8849]	-	4	-4	-	3	-3
著 作 権 法 [8851]	1	3	-2	1	1	±0
四日市市客引き行為等の防止に関する条例 [9800]	2	1	1	1	1	±0
四日市市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例 [9800]	2	-	2	4	-	4
津市廃棄物の減量及び処理等に関する条例 [9800]	2	-	2	2	-	2
三重県動物の愛護及び管理に関する条例 [9810]	9	6	3	4	2	2
三重県自然環境保全条例 [9870]	1	-	1	1	-	1
総 数	603	721	-118	473	538	-65

違反法令別にみると、第17図のとおりで、検挙件数、検挙人員とも、覚せい剤取締法、入管法、廃棄物処理法等が上位を占めている。



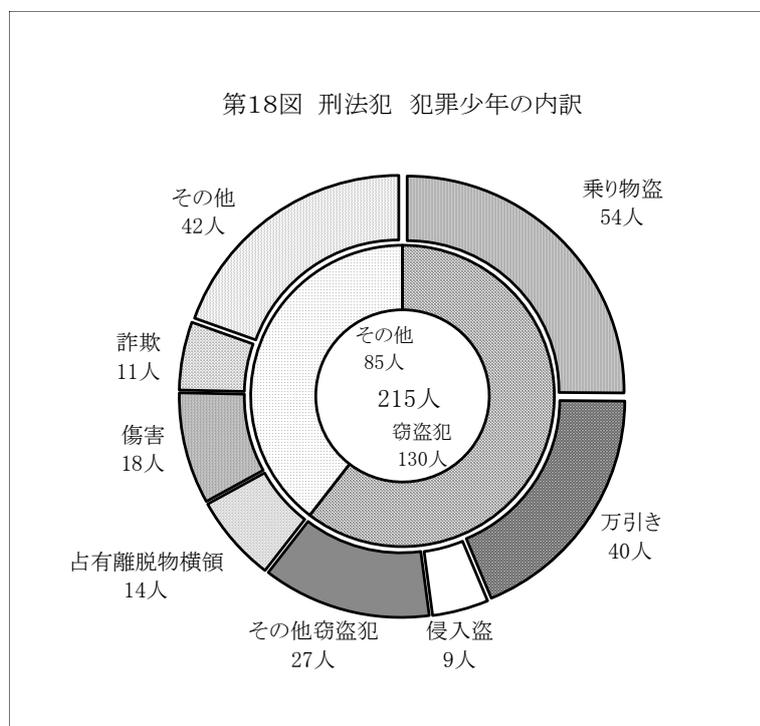
### 3 少年犯罪の状況

(1) 令和元年中に検挙された刑法犯の犯罪少年は、第31表のとおり215人で前年に比べ25人(10.4%)減少した。罪種別にみると、粗暴犯、窃盗犯、風俗犯が減少した。

第31表 刑法犯犯罪少年検挙人員増減比較

包括罪種	令和元年		平成30年		増減	
	数	構成比	数	構成比	人員	率
総数	215	100.0	240	100.0	-25	-10.4
凶悪犯	5	2.3	5	2.1	±0	±0.0
粗暴犯	27	12.6	40	16.7	-13	-32.5
窃盗犯	130	60.5	150	62.5	-20	-13.3
知能犯	11	5.1	9	3.8	2	22.2
風俗犯	3	1.4	5	2.1	-2	-40.0
その他	39	18.1	31	12.9	8	25.8

また、第18図のとおり、窃盗犯の少年が犯罪少年全体の約6割を占めている。特に乗り物盗、万引きの占める率が高い。



(2) 刑法犯検挙人員に占める少年の構成比の10年間の推移をみると、第32表のとおりで、平成23年をピークに減少傾向であり、令和元年は過去10年において少年の構成比が2番目に小さい。

第32表 刑法犯検挙人員に占める少年の構成比

区 分	平成 22	平成 23	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	令和 元
総 数	3,320	3,066	2,898	2,448	2,447	2,278	2,159	2,193	2,210	1,938
うち)少年	973	927	741	593	570	388	294	248	240	215
構 成 比	29.3	30.2	25.6	24.2	23.3	17.0	13.6	11.3	10.9	11.1

(3) 令和元年中の刑法犯検挙人員に占める少年の構成比を警察署別にみると、第33表のとおりで、犯罪少年の構成比が最も高かったのは、亀山警察署の24.2%で、大台、紀宝警察署は発生がなかった。

第33表 刑法犯検挙人員に占める少年の構成比(警察署別)

区 分		平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	令和 元	区 分		平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	令和 元
総 数 桑 名 い な べ 四 北 四 南 四 西 亀 山 鈴 鹿 津 津 南	総 数	2278	2159	2193	2210	1938	松 大 台 伊 勢 鳥 羽 尾 鷺 熊 野 紀 宝 伊 賀 名 張 本 部	総 数	223	257	249	269	211
	うち)少年	388	294	248	240	215		うち)少年	39	32	25	24	19
	構成比	17.0	13.6	11.3	10.9	11.1		構成比	17.5	12.5	10.0	8.9	9.0
総 数	総 数	170	156	153	124	139	大 台 伊 勢 鳥 羽 尾 鷺 熊 野 紀 宝 伊 賀 名 張 本 部	総 数	13	19	13	12	13
	うち)少年	37	18	12	13	15		うち)少年	-	4.0	-	1.0	-
	構成比	21.8	11.5	7.8	10.5	10.8		構成比	-	21.1	-	8.3	-
総 数	総 数	56	59	64	49	65	伊 勢 鳥 羽 尾 鷺 熊 野 紀 宝 伊 賀 名 張 本 部	総 数	159	137	143	216	160
	うち)少年	10	3	2	4	3		うち)少年	21	21	27	23	20
	構成比	17.9	5.1	3.1	8.2	4.6		構成比	13.2	15.3	18.9	10.6	12.5
総 数	総 数	186	155	175	176	134	鳥 羽 尾 鷺 熊 野 紀 宝 伊 賀 名 張 本 部	総 数	86	73	48	51	66
	うち)少年	52	22	15	16	18		うち)少年	32	15	8	5	7
	構成比	28.0	14.2	8.6	9.1	13.4		構成比	37.2	20.5	16.7	9.8	10.6
総 数	総 数	287	301	270	220	200	尾 鷺 熊 野 紀 宝 伊 賀 名 張 本 部	総 数	43	36	39	41	46
	うち)少年	57	42	23	19	16		うち)少年	-	-	6.0	6	2
	構成比	19.9	14.0	8.5	8.6	8.0		構成比	-	-	15.4	14.6	4.3
総 数	総 数	45	60	74	86	66	熊 野 紀 宝 伊 賀 名 張 本 部	総 数	16	22	29	31	16
	うち)少年	5	11	5	10	5		うち)少年	3	1	2	1	2
	構成比	11.1	18.3	6.8	11.6	7.6		構成比	18.8	4.5	6.9	3.2	12.5
総 数	総 数	66	40	57	53	66	紀 宝 伊 賀 名 張 本 部	総 数	16	10	18	12	3
	うち)少年	8	5	4	3	16		うち)少年	1	4	4	3	-
	構成比	12.1	12.5	7.0	5.7	24.2		構成比	6.3	40.0	22.2	25.0	-
総 数	総 数	276	287	304	285	286	伊 賀 名 張 本 部	総 数	136	103	93	108	79
	うち)少年	49	44	47	52	47		うち)少年	18	10	6	13	7
	構成比	17.8	15.3	15.5	18.2	16.4		構成比	13.2	9.7	6.5	12.0	8.9
総 数	総 数	261	287	266	256	188	名 張 本 部	総 数	122	78	86	74	80
	うち)少年	30	50	37	22	18		うち)少年	15	6	16	8	11
	構成比	11.5	17.4	13.9	8.6	9.6		構成比	12.3	7.7	18.6	10.8	13.8
総 数	総 数	117	79	112	147	120	本 部	総 数	-	-	-	-	-
	うち)少年	11	6	9	17	9		うち)少年	-	-	-	-	-
	構成比	9.4	7.6	8.0	11.6	7.5		構成比	-	-	-	-	-

(4) 触法少年を除く少年犯罪の過去10年間の推移を犯行時年齢別にみると、第34表のとおりで、14歳から16歳までの低年齢層が約7割を占めていたが、令和元年には約5割となっている。

第34表 刑法犯犯罪少年の犯行時年齢別検挙人員の推移

区 分	平成 22	平成 23	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	令和 元
総数	977	937	750	600	577	397	296	259	245	219
14歳	203	194	124	127	87	59	45	36	33	43
15歳	219	249	193	147	171	84	63	32	52	30
16歳	264	215	189	151	126	106	60	53	59	43
17歳	133	137	130	91	93	68	58	54	34	41
18歳	94	70	62	40	63	51	36	47	38	41
19歳	64	72	52	44	37	29	34	37	29	21

\* 本表の検挙人員は検挙時に成人していた被疑者を含む。

#### 4 暴力団犯罪の状況

(1) 令和元年中の暴力団の検挙状況は、第35表のとおり、検挙件数は314件、検挙人員は136人で、前年に比べ、検挙件数は58件(22.7%)増加し、検挙人員は52人(27.7%)減少した。

第35表 暴力団犯罪検挙状況

区 分		平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	令和 元
総 数	件数	440	576	225	673	256	314
	人員	182	167	151	140	188	136
刑 法 犯	件数	352	476	139	589	190	253
	人員	129	107	108	97	149	99
特 別 法 犯	件数	88	100	86	84	66	61
	人員	53	60	43	43	39	37

(2) 暴力団犯罪のうち、刑法犯の検挙状況を前年と比較すると、第36表のとおりで、検挙件数は63件(33.2%)増加し、検挙人員は50人(33.6%)減少した。

第36表 暴力団犯罪(刑法犯)罪種別検挙件数・検挙人員

罪 種	検 挙 件 数			検 挙 人 員		
	令和元年	平成30年	増減数	令和元年	平成30年	増減数
総 数	253	190	63	99	149	-50
殺 人	1	-	1	1	1	±0
強 盗	1	1	±0	3	1	2
放 火	-	-	±0	-	-	±0
強 制 性 交 等	1	-	1	1	-	1
凶 器 準 備 集 合	-	-	±0	-	-	±0
暴 行	9	1	8	8	1	7
傷 害	27	14	13	33	14	19
脅 迫	3	6	-3	3	7	-4
恐 喝	4	5	-1	5	7	-2
窃 盗	102	139	-37	15	21	-6
詐 欺	84	9	75	14	9	5
横 領	-	-	±0	1	-	1
文 書 偽 造	2	-	2	2	-	2
賭 博	1	3	-2	1	79	-78
わいせつ物頒布等	-	-	±0	-	-	±0
公務執行妨害	4	-	4	4	-	4
犯人蔵匿	-	1	-1	-	1	-1
証人威迫	-	-	±0	-	-	±0
逮捕監禁	-	-	±0	-	-	±0
信用毀損・ 威力業務妨害	-	-	±0	-	-	±0
器物損壊等	5	3	2	4	2	2
暴力行為等処罰 ニ関スル法律	-	-	±0	-	-	±0
そ の 他	9	8	1	4	6	-2

(3) 暴力団犯罪のうち、特別法犯の検挙状況を前年と比較すると、第37表のとおりで、検挙件数は5件(7.6%)減少した。

第37表 暴力団犯罪(特別法犯)違反法令別検挙件数・検挙人員

違反法令別	検 挙 件 数			検 挙 人 員		
	令和元年	平成30年	増減数	令和元年	平成30年	増減数
総 数	61	66	-5	37	39	-2
軽 犯 罪 法	1	-	1	1	-	1
ス ト ー カ ー 規 制 法	-	1	-1	-	1	-1
風 営 適 正 化 法	3	3	±0	2	4	-2
児 童 買 春 ・ 児 童 ポ ル ノ 禁 止 法	1	-	1	1	-	1
出 資 法	1	-	1	-	-	±0
貸 金 業 法	1	-	1	1	-	1
犯 罪 収 益 移 転 防 止 法	3	1	2	3	1	2
銃 刀 法	1	-	1	1	-	1
麻 薬 等 取 締 法	1	-	1	-	-	±0
大 麻 取 締 法	10	2	8	3	1	2
覚 せ い 剤 取 締 法	37	43	-6	23	25	-2
毒 劇 物 法	2	2	±0	2	2	±0
麻 薬 等 特 例 法	-	9	-9	-	-	±0
廃 棄 物 処 理 法	-	4	-4	-	5	-5
建 設 資 材 再 資 源 化 法	-	1	-1	-	-	±0

## 5 来日外国人犯罪の状況

(1) 令和元年中における来日外国人による犯罪の検挙状況は第38表のとおりである。刑法犯、特別法犯をあわせた総件数は212件、総人員は120人で、前年と比較すると、件数は46件(27.7%)増加し、人員は増減なしであった。

第38表 刑法犯包括罪種別・違反法令別来日外国人検挙状況

区 分	検挙件数				検挙人員				
	令和元年	平成30年	増 減		令和元年	平成30年	増 減		
			数	率			数	率	
総 数	212	166	46	27.7	120	120	±0	±0.0	
刑 法 犯	小 計	146	92	54	58.7	68	67	1	1.5
	凶 悪 犯	3	2	1	50.0	2	2	±0	±0.0
	粗 暴 犯	18	16	2	12.5	17	16	1	6.3
	窃 盗 犯	114	61	53	86.9	43	39	4	10.3
	知 能 犯	3	1	2	200.0	1	4	-3	-75.0
	風 俗 犯	2	1	1	100.0	2	-	2	-
	そ の 他	6	11	-5	-45.5	3	6	-3	-50.0
特 別 法 犯	小 計	66	74	-8	-10.8	52	53	-1	-1.9
	入 管 法	44	39	5	12.8	36	30	6	20.0
	軽 犯 罪 法	-	1	-1	-100.0	-	1	-1	-100.0
	風 営 適 正 化 法	-	-	±0	±0.0	-	1	-1	-100.0
	売 春 防 止 法	-	1	-1	-100.0	-	-	±0	±0.0
	青少年保護育成条例	-	1	-1	-100.0	-	1	-1	-100.0
	児童買春・児童ポルノ禁止法	1	1	±0	±0.0	1	1	±0	±0.0
	犯罪収益移転防止法	-	1	-1	-100.0	-	1	-1	-100.0
	銃 刀 法	-	4	-4	-100.0	-	2	-2	-100.0
	麻 薬 等 取 締 法	1	1	±0	±0.0	-	-	±0	±0.0
	大 麻 取 締 法	3	3	±0	±0.0	2	2	±0	±0.0
	覚せい剤取締法	9	18	-9	-50.0	7	12	-5	-41.7
	廃棄物処理法	-	1	-1	-100.0	-	1	-1	-100.0
	銀 行 法	1	-	1	-	1	-	1	-
	森 林 法	2	-	2	-	2	-	2	-
	不正アクセス禁止法	2	-	2	-	-	-	±0	±0.0
著 作 権 法	-	3	-3	-100.0	-	1	-1	-100.0	
そ の 他	3	-	3	-	3	-	3	-	

(2) また、過去10年間ににおける来日外国人による刑法犯の検挙状況は、第39表、第40表のとおりで、検挙件数、検挙人員ともに増加と減少を繰り返しており、令和元年は検挙件数、検挙人員ともに平成30年より増加した。

また、令和元年中の刑法犯の総数に対し、来日外国人の占める割合は、検挙件数では3.8%検挙人員では3.5%となっている。

第39表 刑法犯来日外国人の検挙件数の推移

区 分	平成	令和									
	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	
総 数	6,480	7,191	5,471	6,048	5,395	4,865	4,557	5,717	4,964	3,829	
	来日外国人	200	262	362	295	253	314	114	150	92	146
	構 成 比	3.1	3.6	6.6	4.9	4.7	6.5	2.5	2.6	1.9	3.8
凶 悪 犯	46	53	54	46	52	45	46	49	50	40	
	来日外国人	2	-	2	4	1	-	3	3	2	3
	構 成 比	4.3	-	3.7	8.7	1.9	-	6.5	6.1	4.0	7.5
粗 暴 犯	350	304	322	343	333	347	360	371	396	393	
	来日外国人	10	12	10	11	11	11	6	11	16	18
	構 成 比	2.9	3.9	3.1	3.2	3.3	3.2	1.7	3.0	4.0	4.6
窃 盗 犯	4,580	5,666	3,920	4,538	3,837	3,526	3,155	4,334	3,623	2,609	
	来日外国人	163	231	312	252	222	285	92	59	61	114
	構 成 比	3.6	4.1	8.0	5.6	5.8	8.1	2.9	1.4	1.7	4.4
知 能 犯	846	452	590	593	574	486	551	440	518	432	
	来日外国人	10	9	9	14	6	8	7	63	1	3
	構 成 比	1.2	2.0	1.5	2.4	1.0	1.6	1.3	14.3	0.2	0.7
風 俗 犯	82	77	101	72	99	79	76	54	52	59	
	来日外国人	1	-	1	-	2	2	1	2	1	2
	構 成 比	1.2	-	1.0	-	2.0	2.5	1.3	3.7	1.9	3.4
そ の 他	576	639	484	456	500	382	369	469	325	296	
	来日外国人	14	10	28	14	11	8	5	12	11	6
	構 成 比	2.4	1.6	5.8	3.1	2.2	2.1	1.4	2.6	3.4	2.0

第40表 刑法犯来日外国人の検挙人員の推移

区 分	平成	令和									
	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	
総 数	3,320	3,066	2,898	2,448	2,447	2,278	2,159	2,193	2,210	1,938	
	来日外国人	113	128	115	96	77	73	51	71	67	68
	構 成 比	3.4	4.2	4.0	3.9	3.1	3.2	2.4	3.2	3.0	3.5
凶 悪 犯	45	47	57	39	54	41	37	37	35	45	
	来日外国人	2	-	3	5	1	-	3	3	2	2
	構 成 比	4.4	-	5.3	12.8	1.9	-	8.1	8.1	5.7	4.4
粗 暴 犯	361	333	351	350	342	339	361	366	393	388	
	来日外国人	10	11	12	12	9	11	5	12	16	17
	構 成 比	2.8	3.3	3.4	3.4	2.6	3.2	1.4	3.3	4.1	4.4
窃 盗 犯	2,164	1,997	1,840	1,530	1,507	1,434	1,334	1,364	1,228	1,115	
	来日外国人	76	95	82	56	49	53	36	41	39	43
	構 成 比	3.5	4.8	4.5	3.7	3.3	3.7	2.7	3.0	3.2	3.9
知 能 犯	204	195	205	214	198	147	157	176	212	164	
	来日外国人	10	12	10	14	8	3	3	4	4	1
	構 成 比	4.9	6.2	4.9	6.5	4.0	2.0	1.9	2.3	1.9	0.6
風 俗 犯	64	52	90	66	76	54	56	33	149	53	
	来日外国人	1	-	1	-	2	2	1	2	-	2
	構 成 比	1.6	-	1.1	-	2.6	3.7	1.8	6.1	-	3.8
そ の 他	482	442	355	249	270	263	214	217	193	173	
	来日外国人	14	10	7	9	8	4	3	9	6	3
	構 成 比	2.9	2.3	2.0	3.6	3.0	1.5	1.4	4.1	3.1	1.7